

ことばの
意味を
学ぼう！

青年訓 ⑨

憂い打ち捨ていざ突き進め 信念一つで万事を開く

「青年訓」の最後の行には、まさに締めとしてふさわしい、私たちが解脱青年として力強く進んでいくための心構えが示されています。

●青年訓
天恵地恩に感謝を捧げ 報恩奉仕が人の道
道に遵いざ奮い起て 平和の建設我等の使
命 逆巻く怒濤猛くとも 天意は固く揺るぎ
なし 泰然自若試験に耐えよ 事に臨んで不
動なれ 真理つかめば心は躍る 大地踏みし
め天職努力 徳を積みつつ進めよ和せよ 自
然の恵は必ず降る 暗い世道に悲観するな
明るい朝が待っている 一歩踏み出し大空望
め 光明希望が展げくる 怒るな責めるな苦
しむな 善きも悪しきもみな鑑 憂い打ち捨
ていざ突き進め 信念一つで万事を開く

※ 憂い▶つらい苦しみ。悲しい悩み。
※ 打ち捨て(る)▶思いきって断ち切ること。
※ 万事▶何事も。すべてのこと。



「いざいよ」の「青年訓」の最終章です。

「青年訓」は、一章毎に深い内容が示されています。同時に、全体がつながりを持って、大きな学びがあることにこれまで学んできてお気づきのことと思います。この章は、私たち解脱青年が力強く歩んでいく最後の学びとなっているのです。

まず、冒頭の「憂い」とは何を指しているのでしょうか。それを八月号からの言葉を借りれば、「自分の思い通りにいかないことを怒ったり責めたり、苦しむこと」です。それらの「憂い」を「みな鑑(手本)」として受け取り、自分自身を成長させることによって、「憂い」を「打ち捨て」ることができるとのことです。

また、悩みや苦しみを打ち捨てるには、金剛さまの御弟子として私た

ちは、金剛さまのみ教えをただ一心に信じて行なう姿勢も大切です。

それは金剛さまの心を我が心として、金剛さまに喜んで頂ける行動をしようということです。つまりこれまで学んできたように、生かされていることに心から感謝し、見返りを求めずに世のため人のために努力(奉仕)して、明るい世の中をつくり出していくことなのです。

そこには、様々な困難や苦勞があるかも知れませんが。しかし、どんな困難にぶつかっても恐れることなく、金剛さまが遺して下さったみ教えを生活の中で生かして自分自身を高めていくことをめざしていけば、道は自然と開けてくるのです。

金剛さまを信じて、力強く前へ進んでいきますように。